

聖書箇所 ルカによる福音書 10：25－37

- 25：するとある立法の専門家たちが立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」
- 26：イエスは言われた。「律法には、何とかいてありますか。あなたはどうか読んでいますか。」
- 27：すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』とあります。」
- 28：イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」
- 29：しかし彼は、自分の正しさを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とはだれのことですか。」
- 30：イエスは答えて言われた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗どもは、その人の着物をはぎ取り、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。」
- 31：たまたま、祭司がひとり、その道を下って来たが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。
- 32：同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。
- 33：ところが、あるサマリア人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、
- 34：近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。(35) 次の日、彼はデナリ二つを取り出し、宿屋の主人に渡して言った。「介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。」
- 36：この三人の中でだれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。(37) 彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って、同じようにしなさい。」

メッセージ骨子：

<序論> 9月に岩手県の被災地を震災後初めて訪れました。そして大船渡のある女性から「(被災地のことを) 忘れないでください」と言われたときには、正直こみ上げるものがありました。震災は、外の人たちにとっては、日に日に『過去』のことになりつつありますが、被災地の人たちにとっては、復興も緒に就いたばかり。相変わらずそれは現在進行形であり、まだこの先何十年も続く現実です。そのギャップが、どれほどさびしく、また不安なことと映っていることでしょう。だから私たちのすべきことは、まずはこの事実を忘れないこと、思い続けること、そして一日も早い復興を祈り続けること。その大切さを痛感しました。また被災地の痛み、悲しみ、不安、恐れは、外の私たちには完全には理解しえない世界であり、両者の間には厳然たる境界線があります。この「境界線」をあえて乗り越え、私たちが被災地に入っていくとすれば、そのとき思うべき姿は「イエス様の仕える姿」なのではないでしょうか。イエス様は神と人の間の、本来なら超えることなど決してありえない「境界線」を越えてやってきてくださり、どこまでも身を低くして私たちを愛し、仕えてくださった。このイエス様の愛と謙遜にならうことこそが、今私たちに求められているのではないのでしょうか。

<ポイント1> 『仕える人の心』は 『弱さを思いやる心』

33節「かわいそうに思い」、リビングバイブルでは「こころから思いやり」とあります。サマリア人が強盗に襲われた旅人に抱いたこの気持ちのように、弱さを思いやる心こそが、被災地で傷ついた人、弱った人に仕える上での最重要 factor。逆にそれなしには **nothing** なのではないのでしょうか。

<ポイント2> 『仕える人の心』は 『時間を惜しまない心』

このサマリア人は自分の本来の予定を変更し、マイナス覚悟でこの旅人のために時間を使いました。『キリストは、私たちのために、ご自分の命をお捨てになりました。それによって私たちに愛が分かったのです。ですから私たちは、兄弟のために、命を捨てるべきです』(第一ヨハネ3：16) 命は時間の集合体。「命を捨てなさい」とは、目の前のそれを必要としている人のために、時間を注ぎださなさい。キリストの愛を知ったものは、そのような生き方をしなさいということなのです。

<ポイント3> 『仕える人の心』は 『与える心』

マザーテレサは「人生の価値は、どれだけ集めたかではなく、どれだけ散らしたかによって決まる。」と言っています。すべては与えるため。あなたの生活が **in put** から **out put** に全面的にシフトチェンジした時、あなたの人生は本当の輝きをもつようになるのではないのでしょうか。

<まとめ> 主こそ大いなるムダをまず私たちのためになしてくださいました。聖なるムダ、あわれみから注ぎだされるムダがどれほど大切かを知り、私たちもそれを必要とする人にしっかりお仕えしたいものです。